

結核は今でも日本最大級の感染症！過去の病気ではありません

知っていますか？結核のこと

明治時代から昭和20年代までは「国民病」と恐れられ、50年前までは、死亡原因の第1位でした。現在は、医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりましたが、日本では1日62人が結核を発病しています。

平成30年に、全国で新たに登録された結核患者数は、前年から約1,200人減少し、結核り患率（人口10万人対の新登録結核患者数）も前年の13.2から12.3^{*1}となり、減少傾向が続いています。しかし、いまだ年間1万5千人以上の結核患者が新たに登録されており、だれもが感染する可能性がある病気であることには変わりありません。

日本は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに、結核り患率10以下の低まん延国となることを目指しています。

結核についての正しい知識をもち、結核の予防と早期発見に努めましょう！

◆仙台市の結核発生状況◆

平成30年中に、仙台市で新たに登録された結核患者数は75人^{*1}（表1）で、結核り患率は6.8^{*1}でした。全国の12.3^{*1}と比較すると低い状況になっています。（図1）

仙台市で新たに登録された結核患者は、70歳以上の高齢者が約半数を占めている一方、20～30歳代の若い世代の患者も約3割を占めています。（図2）

^{*1}平成30年の各数値は、結核登録者情報調査年報による概数。

表1 新登録患者数の推移

（単位：人）

地域	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
仙台市	137	143	125	118	111	101	102	93	87	98	75 ^{*1}
全国	24,760	24,170	23,261	22,681	21,283	20,495	19,615	18,280	17,625	16,789	15,590 ^{*1}

図1 結核り患率の推移

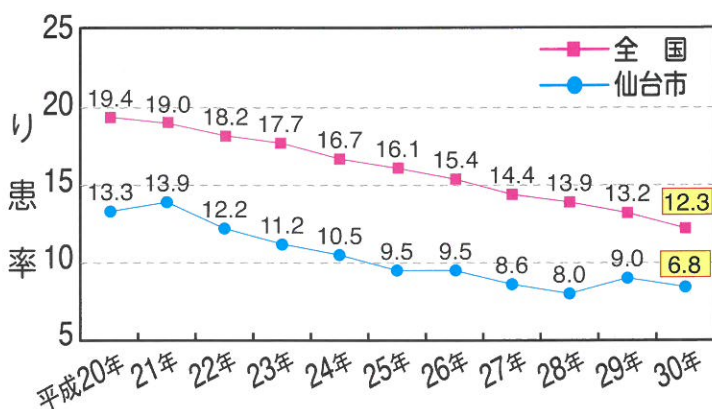
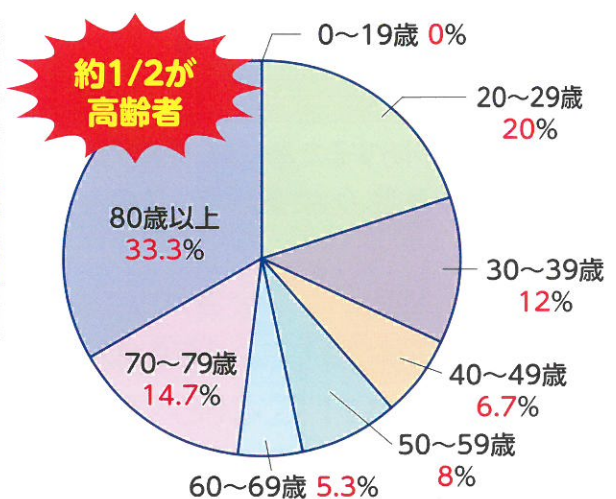


図2 平成30年新登録患者年齢階級別内訳(仙台市)^{*1}



全国の状況

厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00001.html

(公財)結核予防会結核研究所
疫学情報センター

<http://www.jata.or.jp/rit/ekigaku/>

仙 台 市